

# 海を守るために 私たちにできること

魚釣りが好きな僕は、休みの日に祖父に海に連れて行ってもらいます。

そこで、目にするのはたくさんのごみです。その中でも特に多いごみは、タバコの吸い殻です。

なぜ海にタバコの吸い殻が多いのでしょうか。釣りをした人が捨てたにしておまわりにはあまりに多いことに疑問を持ちましたが、その疑問はすぐに解消しました。それは、車の窓から吸ったタバコをそのまま道に捨てている人を何度も見たからです。

道端などに捨てられたタバコの吸い殻は、風が吹いたり、雨が降ったりすることで排水溝に落ちて、そこから川に流れて、下流に流されます。このようにして海にたどり着き、海岸に打ち上げられていたのです。

あの海の大きさからタバコ1本なんてかなり小さいので、

それを捨てるくらいは影響ないと思う人が多いかも知れません。

しかし、英国の健康推進団体であるASHの調査によると世界では年間6兆本ものタバコが消費されており、

そのうち4.5兆本はポイ捨てされているという報告もあります。

また、米国の環境保護団体オーション・コンサーバンシーによると

世界のビーチ清掃活動で集めたごみは1986年以降、

タバコの吸い殻がごみ全体の約3分の1を占めているという報告もあります。

そう考えると、決して無視できるレベルの話ではないことも想像できます。

また、タバコの吸い殻の中には、ニコチンや鉛、カドミウムなどの有害物質が含まれています。

つまり、これらの有害物質が自然界にも広がってしまうのです。

さらにタバコのフィルターは生分解し難い酢酸セルロースという

プラスチックで作られているので、分解されるまでに10年もかかるともいわれています。

もし、その間にタバコの吸い殻を魚が食べてしまったら、

その魚を食べる動物たちにも影響が出てしまいます。

このようにタバコの吸い殻を捨てるだけで、

食物連鎖に大きな影響を与えてしまうのです。

つまりは、食物連鎖の上位にいる人間にも、その害が戻ってきてしまうのです。

また、SDGsの目標の中にも、「海の豊かさを守ろう」と

という項目もあります。

ここにもプラスチックごみの課題が掲げられ、一国の取り組みでなく、

国際的に一致した取り組みの必要性が書かれています。

実際に地域やボランティアの方が浜辺でゴミ拾いをしているのを目にします。

しかし、だからといって、捨て続けてよいのでしょうか。

僕はポイ捨てをしている人、一人ひとりの意識改革が必要だと思います。

たかが1本の小さなタバコの吸い殻かもしれませんが、

しかし、未来の海の豊かさのためには、

この小さな吸い殻の処理の仕方を真剣に考えることを

求められているのだと思います。

これから何年、何十年先も祖父と行く海が

変わらない場所であって欲しいと思っています。



駿台甲府中学校 二年

横山 大悟

絵 山崎 たかし